文化遺産総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	明石市	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	明石市の文化遺産総合活	用推進事業	計画の改善時期】 平成 30 年度
4 実施計画期間	平成 29 年度	~ 平成 33	年度

5 実施計画の概要

明石市文化芸術創生条例(平成21年)を踏まえ、次の事業を実施する。

- (1)地域にある身近な文化財を活用したウォーキングや記録した成果物の配布や電子データの配信などによる情報発信
- (2) 歴史や遺跡を巡るボランティア養成講座の開催による人材育成と市内の遺跡などの関連文化財郡を広く紹介 する普及啓発等
- (3) 市内に現存する地域固有の伝統芸能及び民俗芸能に関する用具の修繕、後継者育成等

また、本事業に参画する文化財保存団体や伝統文化保護団体等と連携し、当事業を遂行することにより、市民の伝統文化等に対する意識の向上及び観光客の増加につなげていく。

6 実施体制

本事業については、明石市が全体計画の企画、調整、事業の指導等を行う。

主な担当課、役割

文化・スポーツ室文化振興課:伝統文化の後継者育成に関する指導及び文化財の保護・啓発等に関する指導等。

また、事業の実施については、次の団体が実施。

明石市の文化遺産総合活用推進事業実行委員会

(「⑤実施計画の概要」における全ての事業を実施。)

構成メンバー(明石市文化財審議会委員2名、NPO法人代表、明石観光協会前会長、明石市文化団体連合会役員)

7 実施計画における目標と期待される効果

別紙①のとおり

8 補助事業の概要 (1) 補助金額 ~平成29年度交付決定額: 93,254 千円 平成30年度申請額: 10,038 千円

(2) 実施事業の概要 別紙②のとおり

9 その他計画実施により想定される効果 (定性的な効果を記載)

- 1. 想定される効果
- (1) 文化財の調査研究や普及啓発を市民団体が主体的に担い、市民目線で事業を推進することで、より効果的な市民との連携や広報活動が行え、これを機に交流が少なかった行政とも更なる事業の連携や事業効果の拡大が期待できる。
- (2) 散逸の危機にある多様で身近な文化財を保存し後世に継承できることが期待できる。
- (3) 市民への文化財等に対する意識の向上、興味関心の喚起が期待できる。
- (4) 市外からの観光客の増加が期待できる。
- 2. 効果の測定方法
- (1) 各事業の参加者へアンケート等を実施するとともに、事業実施団体から事業結果・効果について報告を受け、効果を測る。
- (2) 市関係部局が実施する観光・文化芸術及び文化財に関する統計の分析を行う。

10 その他事業(自主財源、民間団体、他省庁等からの補助(支援)を予定している事業など)

1. 明石市芸術祭(市単独事業) 民謡・民舞、邦楽、茶会、いけばななどを、体験、鑑賞していただく事業を実施し、市民に伝統文化に触れる機会を提供する。
2. 第20回明石薪能の開催(市単独事業) 伝統芸能を継承するとともに、市民に優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供することにより伝 統文化に親しむ機会の拡充を図る。
3. 街角イベント推進事業の実施(市単独事業) 音楽の活動をするグループや個人に発表の場を提供するとともに、市民が身近な場所で音楽に触れ楽しむ機会を提供する。また、賑わいのあるまちづくりにも資する

11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等

市内の歴史文化の特性を把握し、平成31年度より3ヶ年計画で、庁内の観光や政策、都市計画の部署と連携して 「明石歴史文化基本構想」を策定する予定である。

12 担当部局

地方公共団体 担当部局課 明石市市民生活局 文化・スポーツ室 文化振興課 文化財係

7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

日悔反八 1	地域の支援物質を	エ田した焦宏 大法					
目標区分1: 	地域の又化質源を	舌用した集客・交流					
評価指標区分1:	地域の文化遺産への	の来場者数		(具	体的な指標	漂は次のとお	(b)
具体的な指標1:	明石城櫓等、文化社	貴産施設への来場者	数	関連事業:		7	
目標値1:	【現状値】 平成 2	8 年度 5,000	人 ⇒ [目	標値】 平成	33 年	度 12,440	人
設定根拠1:	平成27年度明石観	光入込客数の伸び率	1. 2倍を参考とし	て、毎年度作	申び率1.2倍	音と設定	
進捗状況1:		各年度、	状況値、目標に対	対する達成率			
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年	度 平成 3	3 年度	平成 34	年度
6,000 人	人	人	Д		人		人
13%							
目標区分2:	地域の文化資源を	亥としたコミュニテ	ィの再生・活性化	Ł			
評価指標区分2:	地域に誇りを感じん	る住民の割合		(具	体的な指	漂は次のとお	IJ)
具体的な指標 2:	地域住民意識調査の	の「地域に愛着を感	じる」の割合	関連事業:	1234	56910	
目標値2:	【現状値】 平成 2	8 年度 55	% ⇒ [目	標値】 平成	33 年	度 58	%
設定根拠2:	平成28年度までの行	毎年度平均伸び率0.	3%に対し、2倍の	00.6%を設定	<u>₹</u>		
進捗状況2:		各年度、	状況値、目標に対	対する達成率			
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年	度 平成 3	3 年度	平成 34	年度
56.6 %	%	%	%	, o	%		%
53%							
目標区分3:	伝統文化の継承体制	別の維持・確立					
評価指標区分3:	祭礼行事等の保存:	会会員数、保存団体	数	(具	体的な指	漂は次のとお	(N)
具体的な指標3:	太鼓保存会、稲爪 木自治会、清水自治 野々上自治会、谷 ルハイツ明石自治 会、西島自治会、	字会(小久保村、鳥神社神楽獅子舞大蔵台会太鼓保存会、松八木自治会、東鳴自会、福里自治会、王 大蔵谷獅子舞保存会 お蔵谷獅子舞保存会 お屋神社布団太鼓の総会員数	谷西之組、西八 陰農会、鳥羽 治会、ファミー 子布団太鼓保存 、的射行事保存	関連事業:	(I)~29		
目標値3:	【現状値】 平成 2	8 年度 500	人 ⇒ [目	標値】 平成	33 年	度 1,360	人
設定根拠3:	市内10団体での1団	体年間増加平均が10	0人であることか	ら設定			
進捗状況3:		各年度、	状況値、目標に対	対する達成率			
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年	度 平成 3	3 年度	平成 34	年度
600 人	人	人).		人		人
12%							

8(2) 実施事業の概要 別紙

事業 区分: 情: データー 事業 区分: 情: 事業 概要: ペプ・ 評価指標区分: ・ 注	報発信 平成29年度作成 ページに掲載する プすることにより ホームページ閲	の(仮称)「江井島 ためのデーターを作 、地域や世代を超え	実施団体 : (江) 事業期間: 平 歴史さんぽ」約60~ 成する。「江井島ネ	:ット」http://eiga	平成 33 年度 づくりのホーム											
事業概要: ペプ 評価指標区分: ・ 文 具体的な指標: 閲! 目標値: 【理 進捗状況: 平成 29 年度 平 300 人 25%	平成29年度作成ページに掲載するページによりなーンページ閲 で化遺産を紹介し	ためのデーターを作, 地域や世代を超え	 歴史さんぽ」約60〜 成する。「江井島彳	ページを江井島まちゃ ペット」http://eiga	づくりのホーム											
事業概要: ペプ 評価指標区分: ・ 注 具体的な指標: 閲! 目標値: ほ 進捗状況: 平成 29 年度 平 300 人 25%	ページに掲載する。 することにより ホームページ閲 化遺産を紹介し	ためのデーターを作, 地域や世代を超え	成する。「江井島ネ	:ット」http://eiga	づくりのホーム ashima.netにアッ											
具体的な指標: 関盟 目標値: 【E 進捗状況: 平成 29 年度 平 300 人	化遺産を紹介し	覧数 (PV数)		平成29年度作成の(仮称)「江井島歴史さんぽ」約60ページを江井島まちづくりのホームページに掲載するためのデーターを作成する。「江井島ネット」http://eigashima.netにアップすることにより、地域や世代を超えて、情報を共有することができる。												
世界では、 関連			ホームページ閲覧数 (PV数) (具体的な指標は次のとおり)													
進捗状況: 平成 29 年度 平 300 人 25%		た冊子の内容を江井	島コミュニティセン	ターのホームページ	ジ上に上げ、その											
平成 29 年度 平 300 人 25%	現状値】 平成	28 年度 200	人 ⇒ 【目標	直 】 平成 33 年	度 600 人											
300 人		各年度、		る達成率												
25%	F成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度											
	人	人	人	人	人											
= #0 [m70																
事業②: 「明石の	文化遺産」発信	・活用事業	実施団体: へ	リテージ明石												
事業区分: 情	報発信		事業期間: 平	成 29 年度 ~	平成 33 年度											
形) 事 業概要 : の 発	成する地域の固 化遺産の発信に 活性化を図る。 信することによ	たちと協働し、建造有の資源を掲載した努める。この情報発また地域外の方々に、地域の特徴や良にまち歩きを行い、	文化遺産のマップを 信により、文化遺産 地域の建物・まちな さをより認識しても	作成し、地域内外は を再認識し積極的な みを地域固有の資源 らえると考える。	に配布し、明石の な維持保全や地域 原と組み合わせて											
評価指標区分:・	ホームページ閲	覧数 (PV数)		(具体的な排	旨標は次のとおり)											
具体的な指標: ひ	ょうごヘリテー	ジ機構のホームペー	ジに調査内容等を掲	最載、その閲覧数												
目標値: 平	P成 28 年度	1,000	人 ⇒ 平成	33 年度 5	5,000 人											
進捗状況:		各年度、	状況値、目標に対す	- る達成率												
平成 29 年度 平	P成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度											
2,000 人	人	人	人	人	1											
25%		人	八	八	人											
	Y	Į.	Y	Y	1											

7.7	業③:	あかし	文化遺	産情報発	信事	事業			実施団体:	明月	石の文化	化財調査団			
	事業	区 分:	情報発信	信					事業期間:	平	成 3	0 年度 ~	~ 平成	33	年度
	事業	概要:	域の中 り、地 すく紹	でもその 域の歴史 介したパ	概要に愛	要を知っ を着と誇 プレット	ているも りを持っ を1000部	のが! ても! 作成!	しているが、 まとんどいな らうことを目 し、市内の公 かの地域住民	:い状 指し :共施	:況であ 、明石 :設等に	oる。こうし の文化遺産 ご配布する。	た文化達 の概要を また域[貴産を をわか	知 りや
評値	価指標	区分:	・補助 業分)	事業終了	後の	パンフ	レット等	コンラ	テンツ増刷数	(自	主事	(具体的な	指標は次	マのと	おり)
具体	体的な	指標:		の文化財	·] 0;)コンテ	ンツ増刷	数							
	目	標値:	【現状値	】 平成	30	0 年月	度 0	f	₩ ⇒ [【目標信	直】 平	成 33 4	年度 2	, 000	₩
	進捗	状況:					各年度、	状》	兄値、目標に	:対す	る達成	率			
平成	29	年度	平成	30 年	度	平成	31 年月	王 平	·成 32 4	丰度	平成	33 年度	平成	34	年度
		₩		f	冊		₩			₩		₩	<u> </u>		₩
		江北自	の麻山	わ害跡も	- 1111 Z	くぉ゙ゔノ゙゙゙゠	⑺ガイド養	北 達							
事:	業④:	座	500定义	て、風吹ん	. <i>J</i>	J W / / / /	1/// 11 食	以叫	実施団体:	江河	井島まり	ちづくり協	議会		
	事業	区分:	人材育用				(2)		事業期間:			0 年度 ~		33	年度
	事業	概要:	漁港・流	酒造りを	知る	。 (歴史	や伝統的	な生活	よる講義・現 舌文化を学ぶ コース等をま	ため	関係者				
評値	価指標	区分:	・ボラ	ンティア	ガイ	アド利用	者数					(具体的な	指標は炎	えのと	おり)
具体	体的な	指標:	ボラン	ティアガ	イト	で利用	し、江井	島の歴	歴史等を学ぶ	ぶ人数					
	目	摽値:	【現状値	】平成	30	0 年月	隻 50	,	人 ⇒ [【目標信	直】 平	成 33 4	年度	80	人
	進捗	状況:					各年度、	状況	兄値、目標に	対す	る達成	本			
平成							o. /								
十八	29	年度	平成	30 年	度	平成	31 年月	平	成 32 4	丰度	平成	33 年度	平成	34	年度
十八	29	年度	平成		度	平成	31 年8	+		人	平成	33 年度	平成	34	年度
		人		,	人		人	+		人		人		34	
	29 業⑤ :	人			人		人	+		人				34	
	業⑤:	人 江井島		はなしを	人		人	+		人江河	井島ま	人	議会	34	
	業⑤:	人 江井島	きの昔の 普及啓 江井, 民3名和 まってい。	は な し 発 の度、 音 か 近 説 説 が が が が が が が が が が が が が が が が が	人間幕間の芽	を記録す しない したるい になるい になるい になる。	る 習などをり につる であることがして、 であることがある。 であることである。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。	間の 学 の で き の で き の で き の で で で で で で で で で で	実施団体:	人工で、で話り、歴で、の話史	井島ま 成 2 内事、 仕手の を知る	大 ちづくり協 9 年度 ~ を記録様子る。 対高齢者で愛着	議会 平成 各回80 学校、近	33 歳以_ 能び、に	人 年度 上の住 楽献
事	業⑤:	人 江井島 区分: 概要:	きの 普及 啓 エ3 大 で に ま で に ま ・ 地域	は 発 島 壁 事るた の の の の の の の の の の の の の	人 聞 暮聞の芽ム 産	を記録すりない。いる合いでは、ジャン・ベント	人 る 習 な ま な 取 い れ は す る る く る く れ く は く る く く く く く く く く く く く く く く く く	間の等或こ 業のと の	実施団体: 事業期間: 会を年4回開作をは70年ほど予定している。 等で情報を共有の組を除く)	人工で、単一で、の話史るに、の話史るに、	井島ま 成 2 内事、 位 は し た に し た の に し た の に し に の に る に の に の に の に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に 。 に る に る に る に 。 に る 。 に 。 。 に 。 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 。 に 。 に 。 に 。 に 。 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 。	大 ちづくり協 9 年度 ~ を記録様子る。 対高齢者で愛着	議会 平成 各回80 学でできりい	33 歳以_ 遊域な こつな	人 年度 上の住 鉄 献 が
事訓	業⑤: 事業 事業	人 江井島 区分: 概要:	きの 普及 下 で 大 3 で ま で ま ・ ソ ・ ソ	はない。 を発している。 を発している。 を発している。 を発している。 を発している。 を発している。 を発している。 を発している。 を発いる。 を発いる。 を表している。 をましている。 をましてい	人 聞き	ま記録すりなる合、ジャンのでは、アルカーのでは、アルのでは、アルのでは、アルカーのでは、アルのでは、アルカーのでは、アルカーのでは、アルのでは、アルのでは、アルのでは、アルのでは、アルのでは、アルのでは、アルのでは、アルのでは、アルのでは、アルのでは、アルのでは、アルのでは、アルのでは、アルのでは、アルのでは、アル	人 る 習聞に加掲 を が さ い は す る く を り て き つ れ は す る も く く は く く く く く く く く く く く く く く く く	聞の等或こ 業・	実施団体: 事業期間: 会を年4回開作 容は70年ほど 予定している 音の暮らしや で情報を共有	人 「 在 を を を を に を を に を に を に を に を に に	井島ま 成 2 内事、 位 は し た に し た の に し た の に し に の に る に の に の に の に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に 。 に る に る に る に 。 に る 。 に 。 。 に 。 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 。 に 。 に 。 に 。 に 。 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 。	大 ちづくり協 9 年度 ~ を記録様者で多。 か高こできる。	議会 平成 各回80 学でできりい	33 歳以_ 遊域な こつな	人 年度 上の住 鉄 献 が
事訓	業⑤: 事業 事業 体的な	人 江井島 区分: 概要:	きの 普及 下 で 大 3 で ま で ま ・ ソ ・ ソ	は 発 島 と の 度、 意、 文ル 域 の ら 隣が 一 識ホ 化 キ の の ら 隣が が が し し し も も の ら は い も に も の ら は い も に も の ら は い も に も の も る ら る ら る ら る ら る ら る ら る ら る ら る ら る ら る ら る ら る ら る ら る ら る る る る る る る る る る る る る	人 聞き	記録す し取けえー ベル 産機の い参に ト () 承	人 習聞に加掲 等協 をりて地 を が を りて 地 で を りて 地 で を りて を し で 者 は す な を り で も で も で も で も に 、 し に と し に し に と 、 し に に に に に に に に に に に に に	聞の等或こ 業・	実施団体: 事業期間: 会をは70年では20年ででは20年ででは20年ででは20年ででは20年ででは20年ででは20年では20年	人 「 在 を を を を に を を に を に を に を に を に に	井島 ま 2 内事・の A C L を L を A C L を A C L を A C L を A C L を A C L を A C L を A C L を A C L を A C	大 ちづくり協 9 年度 ~ を記録様子でる。 対高ときる。 (具体的な	議会 平成 各回80 学でできりい	33 歳以_ 遊域な こつな	人 年度 上の住 鉄 献 が
事訓	業⑤: 事業 事業 体的な目	人 江井島 区分: 概要:	き 一 音 の 音 の で の で の は の に の に の に の に の の に 。 に 。 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 。 に 。	は 発 島 と の 度、 意、 文ル 域 の ら の ら の は の の の の の の の の の の の の の	人 聞 暮聞の芽ム 産ピ 化	記録す し取けえー ベル 産機の い参に ト () 承	人 る 習聞に加掲 等数 で動いはする 等数 に関わる をりで地える でする に関わる でする に関わる でする に関わる に関わる に関わる に関わる に関わる に関わる に関わる に関わる に対してはなる にはなる になる になる になる になる になる になる になる に	間の等或こ 業・	実施団体: 事業期間: 会を4回開作を10年ででででででででいる。 実施ではなる でででいる でででいる できる できる できる できる できる できる できる できる できる でき	人工で、単しの話史るおり、「目標的	# 成 2 内事・の 内事・手知と では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	大 ちづくり協議 9 年度 ~ を記録様者できる。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	議会 平成 各校ではいい。 指標は3	33 歳び域で を でのと	人 年度 上災貢が おり)
事訓	業⑤: 事業 事 排標 な 目 進捗	人 工井島 区分 標	き 一 音 の 音 の で の で の は の に の に の に の に の の に 。 に 。 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 。 に 。	は 発 島 程 事 る た 、 文 ル 域 ・ で 、 で 、 で 、 で 、 で り で 、 で り で り で り で り	人 聞 暮聞の芽ム 産ピ 化	記録す し取けえー ベル 産機の い参に ト () 承	人 る 習聞に加掲 等数 で動いはする 等数 に関わる をりで地える でする に関わる でする に関わる でする に関わる に関わる に関わる に関わる に関わる に関わる に関わる に関わる に対してはなる にはなる になる になる になる になる になる になる になる に	間の等或こ 業・	実施団体: 事業期間: 会をは70年の10年の10年の10年の10年の10年の10年の10年の10年の10年の1	人工で、単しの話史るおり、「目標的」	# 成 2 内事・の 内事・手知と では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	大 ちづくり協議 9 年度 ~ を記録様者できる。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	議会 平成 各校、は 学やで きかい 指標は 1	33 歳び域で を でのと	人 年度 上災貢が おり)
事	業⑤: 事業 事 排標 な 目 進捗	人 工分 : 区 概 区 指 標 优 : : : : : : : : : : : : : : : : : :	一 音の一 音の一 音の一 本の一 本の<th>は 発 島程事るた の皮、意、 文ル 地域 平成 1 平成 30 年</th><th>人</th><th>記録す し取けえー べル 産 慣。い参に ト(承 8 年</th><th>人 る 習聞に加掲 を りて を りて 地 る 、 を り て き つ 者 は す な き つ 者 す き 、 を う て き し 、 し 、 し 、 し 、 し 、 し 、 し 、 し 、 し 、 し</th><th>間の等或こ 業・ 大 大 で 大 で 一 大 で の は あ で 大 で で か で か で か で か で か で か で か で か で</th><th>実施団体: 事業期間: 会をは70年の情報を持ずで情報を発達で情報を発言で情報を持ずるでは を発達で情報を対した。 会をは20年の情報を発言では、20年のでは、20年</th><th>人工で、単一では、一種では、一種では、一種では、一種では、一種では、一種では、一種では、一</th><th>#島 a 2 内事・の a 2 内事・の a 2 内事・の a 3 を a 3</th><th>大 ちづくり協議 9 年度 ない を村の齢とである。 では、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、</th><th>議会 平成 各校できり</th><th>33 歳以_ 遊び、 地域に な マのと</th><th>人 年度 住 (</th>	は 発 島程事るた の皮、意、 文ル 地域 平成 1 平成 30 年	人	記録す し取けえー べル 産 慣。い参に ト(承 8 年	人 る 習聞に加掲 を りて を りて 地 る 、 を り て き つ 者 は す な き つ 者 す き 、 を う て き し 、 し 、 し 、 し 、 し 、 し 、 し 、 し 、 し 、 し	間の等或こ 業・ 大 大 で 大 で 一 大 で の は あ で 大 で で か で か で か で か で か で か で か で か で	実施団体: 事業期間: 会をは70年の情報を持ずで情報を発達で情報を発言で情報を持ずるでは を発達で情報を対した。 会をは20年の情報を発言では、20年のでは、20年	人工で、単一では、一種では、一種では、一種では、一種では、一種では、一種では、一種では、一	#島 a 2 内事・の a 2 内事・の a 2 内事・の a 3 を a 3	大 ちづくり協議 9 年度 ない を村の齢とである。 では、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	議会 平成 各校できり	33 歳以_ 遊び、 地域に な マのと	人 年度 住 (

事業⑥: 文化道	遺産にふれあう「ま	ち歩き探検」	実施団体: 江	井島まちづくり協議	会
事業区分:	普及啓発		事業期間: 平	成 29 年度 ~	平成 33 年度
事業概要:	あう「まち歩き探るコース(酒蔵会社)	た「遺跡マップ」を利 検」を実施する。また- ・江井島ぐるっと巡	事業者等の協力を る(寺社)〉	得て、連携して取り	
評価指標区分:		イベント等(本事業の] タル数(協賛企業・団		^{3ける} (具体的な指	標は次のとおり)
具体的な指標:	江井島地域の文化	遺産継承に関わる協賛な	企業団体数		
目標値:	【現状値】 平成	28 年度 1 団	団体 ⇒ 【目標的	直】 平成 33 年	度 5 団体
進捗状況:		各年度、状況	況値、目標に対す	る達成率	
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 平	² 成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度
2 団体	団体	団体	団体	団体	団体
25%					
事業⑦: 明石均	成関連シンポジウム		実施団体: 明	石葵会	
事業区分:	普及啓発		事業期間: 平	成 29 年度 ~	平成 33 年度
事業概要:	ンフレットや現地	シンポジウムを文化博り見学を通して、地域の う、普及啓発に努める。	貴重な文化遺産で	ある明石城とその時	片代に興味・関心
評価指標区分:	・その他			(具体的な指	標は次のとおり)
具体的な指標:	明石城への年間入	場者数		•	
目標値:	平成 28 年度	5,000 人	→ 平成	33 年度 12	,440 人
進捗状況:		各年度、状況	況値、目標に対す	・る達成率	
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 平	² 成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度
6,200 人	人	人	人	人	人
16%					
事業8: 明石6	の石碑拓本採取		実施団体: 江	井島まちづくり協会	
事業区分:	普及啓発		事業期間: 平	成 29 年度 ~	平成 33 年度
事業概要:	島地域内の石碑・まする。	を対象に30名ほど募 道標等の史跡の拓本を	採取する。また地	!域のコミセン祭りな	
評価指標区分:		イベント等(本事業の〕 タル数(協賛企業・団		^{3ける} (具体的な指	標は次のとおり)
具体的な指標:		遺産継承に関わる、協			
目標値:	平成 28 年度	1 団(本 ⇒ 平成	33 年度	5 団体
進捗状況:		各年度、状态	況値、目標に対す	る達成率	
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 平	² 成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度
2 団体	団体	団体	団体	団体	団体
25%					

事業⑨ : 明石0	の布団太鼓プロジェ	クト	実施団体:	明石の布団太鼓プロシ	ジェクト
事業区分:	調査研究		事業期間:	平成 25 年度 ~	平成 33 年度
事業概要:	て、祭礼・神事及る 同時に、これまでは を行う。 【調査研究内容】	するために報告会 収集/現存する各布 及び行事等の実施状			
評価指標区分:	(リストから選択	してください。)		(具体的な	指標は次のとおり)
具体的な指標:	データベース公開	後の閲覧数			
目標値:	平成 31 年度	100	□ ⇒ 平月	戈 33 年度	300 回
進捗状況:		各年度、	状況値、目標に対	する達成率	
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年月	芝 平成 33 年度	平成 34 年度
□	口	回	□	口	回
事業⑩: 明石4	の民俗文化財に関す	る調査研究	実施団体:	明石市の民俗文化財訓	問査団
事業区分:	調査研究		事業期間:	平成 26 年度 ~	平成 33 年度
事業概要:	を実施、現在失わら、地域に残る民意・研究については 館等に配布する。 催する。平成29年月	れつつある伝統文化 具・写真・絵図・古 は、外部の有識者に また、調査で明らか 度は明石城の周りに	を記録化する。調 文書の収集や古老 協力を依頼する。 になったことを中 形成された城下町	に沿った民俗文化財 査では、地域住民に への聞き取りなどを 調査後は報告書にま 心に地元の公民館を を対象とし、江戸時 域性を抽出し、記録	協力をあおぎなが 行う。古文書の解 とめ、地域の公民 使って報告会を開 代以降続いている
評価指標区分:	(リストから選択	してください。)		(具体的な	指標は次のとおり)
具体的な指標:	成果物の増刷				
目標値:	平成 30 年度	年間500	冊 ⇒ 平月	戈 33 年度 年	三間500 冊
進捗状況:		各年度、	状況値、目標に対	する達成率	
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年月	芝 平成 33 年度	平成 34 年度
₩	₩	₩	₩	⊞	₩

事業 ⑪: 小久伊 び公開		吏用する用具の修繕.	及 実施団体: //	小久保村										
事業区分:	用具等整備		事業期間:	平成 29 年度 ~	平成 33 年度									
事業概要:	修繕を行い、氏子が際に主導的な役割を 統行事の歴史や文化	秋祭りに使用する長胴太鼓が経年劣化で傷みが進み、行事に使用する際に支障があるため、 修繕を行い、氏子たちの安心感・行事参加への意欲向上を図る。特に太鼓は、だんじり巡行の 際に主導的な役割を果たすため、子どもたちの憧れの的となっており、これにより、郷土の伝 充行事の歴史や文化を学習するきっかけにもなる。また、地域住民の興味関心を喚起し、育成 事業も合わせて実施することで伝統行事のさらなる活性化に繋がる。												
評価指標区分:	・祭礼行事への参加	叩住民数		(具体的な打	旨標は次のとおり)									
具体的な指標:	小久保三社神社秋刻	奈りに参加する人数												
目標値:	【現状値】 平成 2	8 年度 150	人 ⇒ 【目	標値】 平成 33 年	度 300 人									
進捗状況:		各年度、	犬況値、目標に対	する達成率										
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	度 平成 33 年度	平成 34 年度									
200 人	人	人	人	人	人									
33%														
事業⑪: 鳥羽/ の修繕		用する屋台の雲板彫	刻 実施団体: 』	鳥羽町内会										
事業区分:	用具等整備		事業期間:	平成 29 年度 ~	平成 33 年度									
事業概要:	で30年余使用した昼緩和させるために登	量台なので雲板部分だ 登装を施したが、現 することができ、見	が老朽化し、傷み 在はひび割れが進	けて改修したが、三次が進んでいる。平成1 が進んでいる。平成1 んでいる状態である。 とにより、町民の関	14年には老朽化を 、彫刻を修繕する									
評価指標区分:	・保存会への新規	入会者数		(具体的な打	旨標は次のとおり)									
具体的な指標:	鳥羽八幡神社屋台伯	保存会への新規入会	者数											
目標値:	【現状値】 平成 2	8 年度 10	人 ⇒ 【目	標値】 平成 33 年	度 50 人									
進捗状況:		各年度、	犬況値、目標に対	する達成率										
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	芝 平成 33 年度	平成 34 年度									
10 人	人	人	人	人	人									
0%														

事業(3): 和坂和	k祭りに使用する布[団太鼓の修繕	実施団体:	和坂太鼓	保存会								
事業区分:	用具等整備		事業期間:	平成 2	29 年度 ~	平成 3	33 年度						
事業概要:	蔵が戦火に見舞われ 所から、計画をたっ	和坂布団太鼓は天保8年の明神講帳、太鼓内部の記載から安永2年制作と近年判明した。太鼓 義が戦火に見舞われた際に一部焼失した部分は修理をしている。経年劣化による傷みの酷い箇 所から、計画をたて、次世代に引き継ぐために修理をしている。30年度は修理計画の最終年度 となる。約70年経過し、傷みの激しい布団部分のへびと変色しているへび止めの修理を行う。											
評価指標区分:	・保存会への新規	保存会への新規入会者数 (具体的な指標は次のとおり)											
具体的な指標:	和坂太鼓保存会の名	会員数の変化(維持))										
目標値:	【現状値】 平成 2	8 年度 9	人 ⇒ [目	標値】 平	克成 33 年	度 60	人						
進捗状況:		各年度、	伏況値、目標に 対	する達成	 艾 率								
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年	度平成	33 年度	平成 3	34 年度						
9 人	人	人	J		人		人						
0%													
- /-													
	┃ ♪西之組用具新調事』	業	実施団体:	稲爪神社	神楽獅子舞大	蔵谷西之	組						
事業(4): 大蔵名	予西之組用具新調事 用具等整備	業			神楽獅子舞大		組 33 年度						
事業 (4): 大蔵名	用具等整備 稲爪神社の秋季係がたち、表面の色を動きに耐えられなる 会員の獅子舞のまの会員獲得のために	業 例大祭に奉納される が剥げ、破れたりし くなってきているた きの所得の指導をし こ、小学校で行わる けた活動も実施する	事業期間: 神楽獅子舞で獅子 てきている。大事 め、様式はそのま 、太鼓の演奏技術 地域のイベント等	平成 2 子方が使用 事に取り想 ままを残し 所の継承・	29 年度 ~ 用する衣装は 股ってきたが、 シ新調する。 ・向上も図る	平成 3 引作より + 獅子舞 <i>0</i> 也、地域 <i>0</i>	33 年度 H年以上 D激しい D小学生						
事業(4): 大蔵名事業区分:	用具等整備 稲爪神社の秋季係がたち、表面の色を動きに耐えられなる 会員の獅子舞のきの会員獲得のためいの次世代継承に向い	列大祭に奉納される が剥げ、破れたりし くなってきているた 芸の所得の指導をし こ、小学校で行わる けた活動も実施する。	事業期間: 神楽獅子舞で獅子 てきている。大事 め、様式はそのま 、太鼓の演奏技術 地域のイベント等	平成 2 子方が使用 事に取り想 ままを残し 所の継承・	29 年度 ~ 用する衣装は 股ってきたが、 シ新調する。 ・向上も図る	平成 3 割作より 1 獅子舞 0 也、地域 0 を呼び掛り	33 年度 十年以上 り激しい ウ小学生 けるなど						
事業(4): 大蔵名事業区分:事業概要:	用具等整備 稲爪神社の秋季係がたち、表面の色を動きに耐えられなる 会員の獅子舞のきの会員獲得のためいの次世代継承に向い	列大祭に奉納されるが剥げ、破れたりしくなってきているたまの所得の指導をして、小学校で行わるがた活動も実施する。	事業期間: 神楽獅子舞で獅子 てきている。大事 め、様式はその意 、太鼓の演奏技術 地域のイベント等	平成 2 子方が使用 事に取り想 ままを残し 所の継承・	29 年度 ~ 用する衣装は制 関ってきたが、 し新調する。 ・向上も図る低 と披露し参加を	平成 3 割作より 1 獅子舞 0 也、地域 0 を呼び掛り	33 年度 十年以上 り激しい ウ小学生 けるなど						
事業(4): 大蔵名事業区分:事業概要:	用具等整備 稲爪神社の秋季係がたち、表面の色を動きに耐えられなる 会員の獅子舞のま の会員獲得のためい の次世代継承に向い ・保存会への新規	列大祭に奉納されるが剥げ、破れたりしくなってきているたまの所得の指導をして、小学校で行わるがた活動も実施する。	事業期間: 神楽獅子舞で獅子 てきている。大事 め、様式はその意 、太鼓の演奏技術 地域のイベント等	平成 2 子方が取りましまので技芸ので技芸を でするで表示ので表示ので表示ので表示ので表示で表示で表示。	29 年度 ~ 用する衣装は制 関ってきたが、 し新調する。 ・向上も図る低 と披露し参加を	平成 3 割作より 1 獅子舞 0 也、地域 0 を呼び掛り	33 年度 十年以上 り激しい ウ小学生 けるなど						
事業(4): 大蔵名 事業区分: 事業概要: 評価指標区分: 具体的な指標:	用具等整備 稲爪神社の秋季係がたち、表面の色を動きに耐えられなる 会員の獅子舞のから の次世代継承に向い ・保存会への新規を 稲爪神社神楽獅子	例大祭に奉納される が剥げ、破れたりし くなってきているた 芸の所得の指導をし こ、小学校で行わる けた活動も実施する。 入会者数	事業期間: 神楽獅子舞で獅子でかる。大事できている。大事のはその演奏技術がある。 、太鼓の演奏技術地域のイベント等の	平成 2 子方が使りました。 子方に取を残まる。 子が取りました。 子が取りません。 子が取りません。 子が取りません。 子が取りません。 子が取りません。 子が取りません。 でする。 でする。 でする。 でする。 でする。 でする。 でする。 でする	29 年度 ~ 用する衣装は開かるででででででででででででででででででででいる。 ・ では露しるができた。 ・ (具体的な指	平成 3 引作より 十 獅子舞 0 也、地域 0 を呼び掛い	33 年度 十年以上 り激しい ウ小学生 けるなど)とおり)						
事業(4): 大蔵名 事業区分: 事業概要: 評価指標区分: 具体的な指標: 目標値:	用具等整備 稲爪神社の秋季係がたち、表面の色を動きに耐えられなる 会員の獅子舞のから の次世代継承に向い ・保存会への新規を 稲爪神社神楽獅子	例大祭に奉納される が剥げ、破れたりし くなってきているた 芸の所得の指導をし こ、小学校で行わる けた活動も実施する。 入会者数	事業期間: 神楽獅子舞で獅子でかる。大事ではまる。 が、大鼓の演奏技術 地域のイベント等 新規入会者数	平成 2 平成 2 一方が取り表する 2 一方にまので技 33 一方で 33 方面 33 日本 33 日本 33 日本 33 日本 33 日本 33 日本 34 日本 35 日本 33 日本 34 日本 34 日本 34 日本 35 日本 35 日本 35 日本 35 日本 35 日本 35 日本 36 日本 36 日本 37 日本 36 日本 37 日本 37 日本 36 日本 37 日本 37 日本 37 日本 37 日本 37 日本 37 日本 37 <th>29 年度 ~ 用する衣装は開かるででででででででででででででででででででいる。 ・ では露しるができた。 ・ (具体的な指</th> <th>平成 3 割作より 1 獅子舞 0 也、地域 0 を呼び掛い 5標は次の 20</th> <th>33 年度 十年以上 り激しい ウ小学生 けるなど)とおり)</th>	29 年度 ~ 用する衣装は開かるででででででででででででででででででででいる。 ・ では露しるができた。 ・ (具体的な指	平成 3 割作より 1 獅子舞 0 也、地域 0 を呼び掛い 5標は次の 20	33 年度 十年以上 り激しい ウ小学生 けるなど)とおり)						
事業(4): 大蔵名 事業区分: 事業概要: 評価指標区分: 具体的な指標: 目標値: 進捗状況:	用具等整備 稲爪神社の秋季係がたち、表面の色を動きに耐えられなる 会員獲得のためいの次世代継承に向い ・保存会への新規プ 稲爪神社神楽獅子舞 平成 28 年度	列大祭に奉納される が剥げ、破れたりし くなってきているた 芸の所得の指導をし こ、小学校で行わる けた活動も実施する。 入会者数 羅大蔵谷西之組への 3 各年度、	事業期間: 神楽獅子舞で獅子でででででいる。 神楽がいる。そのはでででででででできる。 神楽がいる。 神楽がいる。 が、大鼓のはそを技術ででいる。 大数のイベントをできる。 新規入会者数 人 ⇒ 平 大況値、目標に文	平成 2 平成 2 子店にまので技 大方取を継去 成 33 する 平成	29 年度 ~ 用する衣装は開けるでででででででででででででででです。 一・一・一・一・一・一・一・一・一・一・一・一・一・一・一・一・一・一・一・	平成 3 割作より 1 獅子舞の 也、地域の と呼び掛い 5標は次の 20	### ### ### ### ### #################						

事業(5):	八木伯	吉神社	秋祭!	に使用	用する月	用具の	補充		実抗	施団体	:	西八	木自	治会					
事業	区分:	用具等	整備						事	業期間]:	平成	2	9 :	年度	~	平成	33	年度
事業	大概要 :	台の担 朽化し	現在、八木住吉神社秋祭りでは神輿1基、大人屋台2基、子供屋台2基が練っている。大人屋台の担ぎ手が減っている現状では、子供屋台の担ぎ手及び、育成が必要である。それには、老5化している子供屋台の修繕が急務である。また不足している乗り子の法被を補充することにち、揃いの法被を着る一体感を持ち、祭りへの関心、仲間意識を高めることに繋がる。											、老					
評価指標	区分:	・保存	会への	新規プ	人会者数	女								(具	体的	な指	標は	次のと	おり)
具体的な	指標:	西八木	祭保存	字会への	の新規ノ	\会者	数												
E	標値:	【現状値	i) Ŧ	成 2	8 年	度	90	J	人	\Rightarrow	[標値】	平	成	33	年	度	150	人
進捌	状況:					各	·年度、	状涉	记值、	目標	にす	すする	達成	來					
平成 29	年度	平成	30	年度	平成	31	年度	平	成	32	年	度	平成	33	年	度	平成	34	年度
110	人			人			人				人	,			J				人
33%																			
事業16:	秋祭り	に使用	する月	用具の値	修繕及び	び公開	事業		実抗	布団体	- :	清水	自治	会太!	鼓保有	字会			
事業	区分:	用具等	整備						事	業期間] :	平成	3	0	年度	~	平成	33	年度
事業	大概要 :	部を修 に参加	繕し、 するこ	修理5 ことが7	見場を- でき、意	一般公 意欲向	経年劣化 :開する]上に繋 3土や伝	。 がる	市団 力 る。 ₃	太鼓を また、	修理	善する 里現場	うこと 湯をク	: によ :開す	り、こ	安心とで	い感を で、行	·持って ·事の歴	行事
評価指標	区分:	• 祭礼	行事~	への参加	11住民数	女								(具	体的7	な指	標は	次のと	おり)
具体的な	指標:	清水秋	祭り神	事事に参	参加する	を住民	数												
E	標値:	【現状値	i】 平	成 2	9 年	度	300)	ا	⇒	[]	標値】	平	成	33	年	度	500	人
進捌	状況:		各年度、状況値、目標に対する達成率																
平成 29	年度	平成	30	年度	平成	31	年度	平	成	32	年	度 ⁻	平成	33	年	度	平成	34	年度
	人			人			人				人				J				人

	火祭り・正月祈願に作 昇事業	吏用する用具の修繕	及 実施団体:	公陰農会									
事業区分:	用具等整備		事業期間:	平成 29 年度 ~	平成 33 年度								
事業概要:	りが経年劣化で傷/ 一般公開を実施する 愛着・継承意欲の	松陰地区での春季・秋季の伝統的な祭礼で使用する、布団太鼓・子ども太鼓・獅子・だんじ)が経年劣化で傷んでおり、行事に使用する際に支障が出るため修理をする。また修理現場の一般公開を実施する。行事の歴史、生い立ちや経過を学習することにもなり、郷土や行事への愛着・継承意欲の育成を図る。また太鼓、獅子技能取得者により、保存会員40名程への技芸の継承も行うとともに、保存会員、男女を問わず乗り子を募集し、伝統行事の継承、活性化につなげる。											
評価指標区分:	・保存会会員数の変	変化(維持)		(具体的な打	旨標は次のとおり)								
具体的な指標:	松蔭農会の現会員の		が脱退した際にも	会員数が減少しない。	ように入会者を増								
目標値:	【現状値】 平成 2	8 年度 156	人 ⇒ 【目柱	標値】 平成 33 年	度 160 人								
進捗状況:		各年度、	 	する達成率									
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	要 平成 33 年度	平成 34 年度								
156 人	人	人	人	人	人								
0%													
事業18: だんし	じり用紅提灯製作及る	び雄獅子修理	実施団体: 原	鳥羽野々上自治会									
事業区分:	用具等整備		事業期間:	平成 30 年度 ~	平成 33 年度								
事業概要:	め、雄獅子の下ある 考える。雄獅子は1 で、剥離箇所に金約 中は提灯が揺れる7	ごが破損している。 コに剣を咥える演舞 客を押す。また、だ	破損部分が小さい により、剣と牙が んじり巡行の際に との接触部分に傷	舞している。長年演舞ため、部分的な修理に接触し、牙の金箔が、切長の紅提灯を6月みがでてきている。	にて対応しようと 剥離しているの 登装飾する。巡行								
評価指標区分:	・祭礼行事への参加	叩住民数		(具体的な打	旨標は次のとおり)								
具体的な指標:	だんじり引手及び狐	師子舞の舞手の確保		·									
目標値:	【現状値】 平成 2	29 年度 24	人 ⇒ 【目柱	標値】 平成 33 年	度 40 人								
進捗状況:		各年度、		する達成率									
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	度 平成 33 年度	平成 34 年度								
人	人	人	人	人	人								

70 H =		放打に仕用よる田日の	\ 1										
	下任吉仲任春・秋の ≤新調事業	祭礼に使用する用具の	実施団体:	谷八木自	治会								
事業区分:	用具等整備		事業期間:	平成 3	0 年度 ~	平成 33	年度						
事業概要:	屋台重量により摩い、秋の祭礼には 劣化により、顎接 たが、修理が厳し	布団太鼓屋台の台車車輪は金属製で外輪部分はラバーゴムで覆われているため、経年劣化及び 量台重量により摩耗が激しい。屋台巡行にも支障をきたしており、安全確保のために修理を行い、秋の祭礼には、より身近に感じてもらえるよう巡行経路を拡大する。また、獅子頭は経年 お化により、顎接続部分が損傷、欠落している。この数年は保存会員が応急修理で対応してき たが、修理が厳しくなってきており、新調する。春と秋の祭礼には、神社境内で獅子舞を披露 し、伝統文化行事への関心と参加を促し、地域との連帯感の醸成に資する。											
評価指標区分:	・祭礼行事への参	加住民数			(具体的な指	指標は次のと	おり)						
具体的な指標:	昼宮での神社参拝	、祭礼行事見学者			-								
目標値:	【現状値】 平成	29 年度 320	人 ⇒ [[標値】 平	成 33 年	度 450	人						
進捗状況:		各年度、状	況値、目標に対	対する達成	· 这率								
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 3	平成 32 年	度 平成	33 年度	平成 34	年度						
人	人	人	J		人		人						
事業20 : 住吉神 公開事		る布団太鼓の改修及び	実施団体:	東嶋自治	会								
事業区分:	用具等整備		事業期間:	平成 3	0 年度 ~	平成 33	年度						
事業概要:	に安全性に危惧が 継者育成を兼ねて 棒締め作業実施予	使用する布団太鼓の担 あるため、担ぎ棒の交 、棒締め講習会を実施 定の9月に数日間に渡り つてきた棒締めを若手	換修理をし、そ する。現場公開 り実施する。ま	その際に 뢲は、東嶋 た、棒締	棒締めの作業/ 鳥住吉神社内 め作業の講習	公開とともに 布団太鼓蔵前 を行うこと	、後 fにて						
評価指標区分:	・保存会会員数の	変化(維持)			(具体的な指	旨標は次のと	おり)						
具体的な指標:	祭り運営に携わる	自治会傘下の東嶋保存	会の会員数の変	变化									
目標値:	【現状値】 平成	29 年度 70	人 ⇒ [[標値】 平	成 33 年	度 90	人						
進捗状況:		各年度、状	況値、目標に対	付する達成	· 李								
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年	度 平成	33 年度	平成 34	年度						
人	人	人	J		人		人						

事業21): 林神社	土秋祭りに使用する	ら神輿の修理	実施団体:	ファミー	ルハイツ明石	自治会					
1 11 2	1						左 庄 庄				
事業概要:	用具等整備 事業期間: 平成 29 年度 ~ 平成 33 年度 神輿は入念に点検し、祭後は大切に保管するなど丁寧に扱ってきた。しかし、巡行の際に木の枝等との接触で、屋根、欄間や本体部分を傷つけることが多く、破損した昇総才を修繕する。見栄えが良くなった神輿で巡行することで祭りへの関心や意欲向上につなげ、祭りの継承を図る。										
——————— 評価指標区分:	・祭礼行事への参	・祭礼行事への参加住民数 (具体的な指標は次のとおり)									
 具体的な指標:	祭礼参加者の増加	祭礼参加者の増加(ファミール住民、地域住民)									
目標値:	【現状値】 平成 28 年度 188 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 226 人										
		各年度、特	大況値、目標に対	する達成	率						
平成 29 年度	平成 30 年月	王 平成 31 年度	平成 32 年	度 平成	33 年度	平成 34	年度				
167 人	人	人	人		人		人				
-55%											
事業② : 福里村	村伝統文化財保存事	業	実施団体:	福里自治:	会						
事業区分:	用具等整備		事業期間:	平成 3	0 年度 ~	平成 33	年度				
事業概要:	め、修繕を行う。	に使用する布団太鼓原 布団太鼓屋台の修繕ル 野神社秋祭りへの参加。	こよって維持保存	すすること	により、自治	台会員に歴史					
評価指標区分:	・祭礼行事への参	加住民数			(具体的な指	信標は次のと	おり)				
	御厨神社秋祭りの)参加住民数									
目標値:	【現状値】 平成	29 年度 200	人 ⇒ 【目	標値】平	成 33 年	度 300	人				
目標値: ——— 進捗状況:	【現状値】 平成		人 ⇒ 【目			度 300	人				
		各年度、制		する達成			人 年度				
進捗状況:		各年度、物理 名	犬況値、目標に対	する達成	李						
進捗状況: 平成 29 年度	平成 30 年月	各年度、物理 名	犬況値、目標に交平成 32 年	する達成	33 年度		年度				
進捗状況: 平成 29 年度	平成 30 年月	各年度、特 (基本) 平成 31 年度 人	犬況値、目標に交平成 32 年	する達成	33 年度		年度				
進捗状況: 平成 29 年度 人 事業②: 王子布	平成 30 年月	各年度、特 (基本) 平成 31 年度 人	大況値、目標に交 平成 32 年 人 実施団体:	する達成	33 年度 人 太鼓保存会	平成 34	年度				
進捗状況: 平成 29 年度 人 事業②: 王子布	平成 30 年度 平成 30 年度 人 一	各年度、特 (基本) 平成 31 年度 人	大況値、目標に交 平成 32 年 少 実施団体: 事業期間: されられ割れが引来に入る。が発来した。 対換域住民にPRをで で地域住民にPRを	技 平成	本 33 年度 人 太鼓保存会 9 年度 本 かた、修理よりを行う。 かに地域のシン では、のシン	平成 34 平成 33 呼成 36年 弾のよう。 ボルとして マボルとして	年 人 度 にが締め補 こ補				
進捗状況: 平成 29 年度 人 事業②: 王子在	平成 30 年月	各年度、** 「本本のでは、 31 年度 人	大況値、目標に交 平成 32 年 少 実施団体: 事業期間: されられ割れが引来に入る。が発来した。 対換域住民にPRをで で地域住民にPRを	技 平成	本 33 年度 人 太鼓保存 度 大鼓保存 度 本がののでは、 ながいた。 ないたがいたがいた。 ないたがいた。 ないたがいた。 ないたがいた。 ないたがいた。 ないたがいた。 ないたがいた。 ないたがいた。 ないたがいた。 ないたがいた。 ないたがいたがいたがいたが、 ないたがいたが、 ないたがいたが、 ないたがいたが、 ないたがいたが、 ないたがいたが、 ないたがいたが、 ないたがいたが、 ないたがいが、 ないたが、 ないたが、 ないたが、 ないが、 ないが、 ないがいが、 ないがいが、 ないがいがいが、 ないがいが、 ないがいが、 ないがいがいが、 ないがいがいが、 ないがいが、 ないがいがいが、 ないがいが、 ないがいが、 ないがいが、 ないがいが、 ないがいが、 ないがいがいが、 ないがいがいがいが、 ないがいがいがいが、 ないがいがいがいがいが、 ないがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいが	平成 34 平成 33 呼成 36年 弾のよう。 ボルとして マボルとして	年 上 度 にが締め補す				
進捗状況: 平成 29 年度 人 事業②: 王子本事業区分: 事業概要:	平成 30 年度	各年度、 で成 31 年度 人 はよび公開事業 こされ、30年近く使用される傷みが各所に見る情重をうける特組やの場合がある生地のであるといる場合である。 は一次の町内巡行できる。 は一次の町内の指導を は一次の指導を は一次の指導を は一次の指導を は一次の指導を は一次の指導を は一次の指導を は一次の指導を は、	大況値、目標に交 平成 32 年 少 実施団体: 事業期間: されられ割れが引来に入る。が発来した。 対換域住民にPRをで で地域住民にPRを	技 平成	本 33 年度 人 太鼓保存 度 大鼓保存 度 本がののでは、 ながいた。 ないたがいたがいた。 ないたがいた。 ないたがいた。 ないたがいた。 ないたがいた。 ないたがいた。 ないたがいた。 ないたがいた。 ないたがいた。 ないたがいた。 ないたがいたがいたがいたが、 ないたがいたが、 ないたがいたが、 ないたがいたが、 ないたがいたが、 ないたがいたが、 ないたがいたが、 ないたがいたが、 ないたがいが、 ないたが、 ないたが、 ないたが、 ないが、 ないが、 ないがいが、 ないがいが、 ないがいがいが、 ないがいが、 ないがいが、 ないがいがいが、 ないがいがいが、 ないがいが、 ないがいがいが、 ないがいが、 ないがいが、 ないがいが、 ないがいが、 ないがいが、 ないがいがいが、 ないがいがいがいが、 ないがいがいがいが、 ないがいがいがいがいが、 ないがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいが	平成34平成33び平成26年度 でのますがまった。 ではいますがいますが では 	年 上 度 にが締め補す				
進捗状況: 平成 29 年度 人 事業②: 王子 事業区分: 事業概要: 評価指標区分:	平成 30 年度	各年度、1 を	大況値、目標に交 平成 32 年 少 実施団体: 事業期間: されられ割れが引来に入る。が発来した。 対換域住民にPRをで で地域住民にPRを	する達成 要 平成 子成 なれ本い経う。伝 で体る年生まれ	本 33 年度 人 太鼓 年度 人 太鼓 年 度 本の からの からの からの がに地域の かいたが に立文 (具体的な は なり の の の の の の の の の の の の の	平成34平成33び平成26年度 でのますがまった。 ではいますがいますが では 	年 上 度 にが締め補す				
進捗状況: 平成 29 年度 人 事業②: 王子石 事業区分: 事業概要: 評価指標区分: 具体的な指標:	平成 30 年度	各年度、 でででは、までは、までは、までは、までは、まででは、まででは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、な	大況値、目標に交 平成 32 年 上次 実施団体: 事業期間: 計算 されるれるれるれるので 計算 おいるれるので おります はり、 大き 大き 大き おいるので おります はり、 大き はり、 大き はり、 大き はり、 大き として 大き として 大き として 大き として 大き として 大き とり 大き	する達成 度 平成 子成 7年 はかい手を行成 なお本い経の。伝 成 33	本 33 年度 人 太鼓 保 存 度 人 大鼓 保 存 度 本の 33 年度 人 大砂 年 度 本の 33 年度 本の 33 年度 本の 33 年度 本の 33 年度 本の 36 26 26 26 26 26 26 26 26 26 26 26 26 26	平成34平成33び取り33び取り34中の35が取り35は次のと4141414141414141414142434344556677687879899899 <th< th=""><th>年 上 年 度 上 上 上<</th></th<>	年 上 年 度 上 上 上<				
進捗状況: 平成 29 年度 人 事業②: 王子花 事業区分: 事業 区分: 事業 概要: 評価指標区分: 具体的な指標: 目標値:	平成 30 年月 平成 30 年月 一	各年度、**	大況値、目標に交 平成 32 年 大況値、目標に交 平成 32 年 大 実施団体: 事業期間: されられれれ割、が引きれるが引来に対し、 大のでもした。が発幕に対してをした。 大のでものでものでものでものでものでものでものでものでものでものでものでものでもの	する達成 支 平成 子成 1本へい経っ、伝 ない部た実ま統 成する 成する	本 33 年度 人 太鼓 保 存 度 人 大鼓 保 存 度 本の 33 年度 人 大砂 年 度 本の 33 年度 本の 33 年度 本の 33 年度 本の 33 年度 本の 36 26 26 26 26 26 26 26 26 26 26 26 26 26	平成34平成33び取り33び取り34中の35が取り35は次のと4141414141414141414142434344556677687879899899 <th< th=""><th>年 上 年 度 上 上 上<</th></th<>	年 上 年 度 上 上 上<				
進捗状況: 平成 29 年度 人 事業②: 王子花 事業区分: 事業 区分: 事業 概要: 評価指標区分: 具体的な指標: 目標値: 進捗状況:	平成 30 年度 平成 30 年度 大	各年度、 を 平成 31 年度 人 および公開事業 され、30年近各側に受される傷みがる特別である。 このよるの所に受される場合である。 される傷みがる特別である。 は、一つのおり等の指導を は、一つのおりののでは、 は、一つのおりのでは、 は、一つのおりのおりのおりのおりのでは、 は、このを加動員数 は、このを対しまする。 は、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、こので	大況値、目標に交 平成 32 年 大況値、目標に交 東 32 年 大 実	する 変成 主 平 はのでも行成 で体る年。伝 33 速成 で体る矢ま統 33 成 のでは、 25 33 34 35 36 37 37 38 38 39 30 30 30 30 30 30 30 30 30 30 31 32 33 43 44 45 46 47 47 48 49 40 40 40 40 40 40 40 4	本 33 年度 人 太鼓 年度 人 大鼓 年度 本がののでは、 ないのででは、 ないのででである。 ないのでである。 ないのでである。 ないのでである。 ないのでである。 ないのでである。 ないのでである。 はいのでである。 はいのでである。 はいのでである。 はいのでは、 はいでは、 はいのでは、 はいのでは、 はいのでは、	平成34平成33び平の成分を手術のよう。がず水水を主動と変化が水水1は次のと1111212122222323343536373822282228222829293	年 上 度 上 度 機 数 次 り 人				

事業24:	魚住住	E吉神社	秋祭	りに使り	用するす	布団太	鼓の修	理	実施	団体	: 西	島自治	会				
事業	区分:	用具等	整備					T	事業	期間	: 平	成	29 £	F度 ~	平成	33	年度
事業	概要:	魚住住吉神社の秋祭りは播州秋祭りの締めくくりの祭りでもある。布団太鼓の担ぎ棒に棒を 縦断する大きなひび割れ、ささくれなどのが劣化があるため、安全な巡行できるよう長棒4本、 短棒4本の計8本を入れ替える。安全性が確保され、秋祭りの参加者の安心感、行事参加への意 欲向上に繋がる。練りの指導などを行い、後継者育成・伝統行事の継承を図る。															
評価指標	区分:	• 祭礼	・祭礼行事への参加住民数 (具体的な指標は次のとおり)														
具体的な	指標:	担ぎ手	の増加	叩(現壮	犬100人	よりの)増加)										
目	標値:	平成	28	年度		100		人	:	⇒	平成	33	年度	:	200		人
進捗	状況:					各	年度、	伏況	≀値、	目標に	こ対す	る達					
平成 29	年度	平成	30	年度	平成	31	年度	平月	成	32	年度	平成	33	年度	平成	34	年度
150	人			人			人				人			人			人
50%	1	\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\			T				15	- //		# 12.7%	r - tore to	7 ^			
事業②: 		♪獅子舞 「		用する 月	†具の1	修 繕		_		団体			下 舞伊				
事業 ————	区分:	用具等									: 平			F度 ~		33	年度
事業	概要:	価なも 激しい 馬	のです 踊り 毛の打 、10月	あり、付いたのであり、付います。 あり、たり、たりのかく	R存会員 飛子なる 飛さな で 発りで を	員の宝 跳損等 使用す	である 転る 転みる。	たび重統的	大切る等のはある。	に使りの の踊り の技芸	用して りが当び 芸や演	いる くあ いどい (奏の)	が、 さた 能承 を	。今回(保存会(、生地(ある。) 実施すっ	の芸風に のほつね 0月まで	は荒々 いやや に修約	しく ぶ 善を完
評価指標	区分:	・保存	会会員	員数の変	变化(約	維持)							(具作	体的な扌	旨標は次	マのと	おり)
具体的な	指標:	大蔵谷	—— 獅子	■ 軍保存会	会の会員	員数の	変化(維持	与)								
目	標値:	平成	28	年度		60		人	:	⇒	平成	33	年度		85		人
進捗	状況:	各年度、状況値、目標に対する達成率															
平成 29	年度	平成	30	年度	平成	31	年度	平月	成	32	年度	平成	33	年度	平成	34	年度
60	人			人			人				人			人			人
0%																	

事業26 : 文化道	貴産継承事業に伴う月	用具等の新調	実施団体:	的射行事件	呆存会						
事業区分:	用具等整備		事業期間:	平成 29	9 年度 ~	平成 33	年度				
事業概要:	祭事に着用する着物を用意し毎年着用してきたが、最近の青年の体格が大きくなり当保存会が保有する着物のサイズでは小さい現状である。地域の伝統ある神聖な祭事であるので、身丈にあった着物をきちんと着用し厳粛に遂行することで、見物人の好感につながり、保存会員や参加者の士気高揚や意欲向上につながると考える。また若年者に合う用具を用意することは、次世代への行事継承のためにも大変重要である。後継者育成として、行事の開催前から射手の若者に伝統的な作法等を指導し、伝統文化の継承を図る。										
評価指標区分:	・保存会会員数の変	变化 (維持)			(具体的な排	指標は次のと	:おり)				
具体的な指標:	的射行事保存会の理	見行役員8名を維持し	ていく。								
目標値:	平成 28 年度	8	人 ⇒ 平原	戊 33	年度	8	人				
進捗状況:		各年度、粉	状には、目標に対	する達成	.率						
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年月	度 平成	33 年度	平成 34	年度				
8 人	人	人	人		人		人				
100%											
事業② : 大窪/ 開事賞		用する用具修繕及び公	字施団体:	西大窪自治	台会						
事業区分:	用具等整備		事業期間:	平成 29	9 年度 ~	平成 33	年度				
大窪八幡宮秋祭りに使用する和太鼓が経年劣化・老化でひび割れしており、安全に行事を実施するために張替修理を行う。修理を行い安心感を持って太鼓の練習を実施し、行事への参加意欲向上につなげる。修理は8月までに完了させ、9月に太鼓の練習をし、10月の大久保八幡宮秋祭りで使用する。自治会員獲得に努め、小中学生を中心に参加を呼び掛けるとともに、太鼓の技芸等を指導・伝承を実施する。											
評価指標区分:	・保存会会員数の変化(維持) (具体的な指標は次のとおり)										
具体的な指標 : 西大窪自治会の保存会会員数の変化											
目標値:	平成 28 年度	350	人 ⇒ 平原	戊 33	年度	600	人				
進捗状況:	: 各年度、状況値、目標に対する達成率										
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年月	度 平成	33 年度	平成 34	年度				
400 人	人	人	人		人		人				
20%											

111111111111111111111111111111111111111	L+1 イ(kg to) - /+ 田 L	フロロのなど ロスパハ	HH							
事業28 :	押住秋祭りに使用す -	る用具の修繕及び公	第 実施団体: 岩	実施団体: 岩屋神社布団太鼓保存会						
事業区分:	用具等整備		事業期間: 平	² 成 29 年度 ~	平成 33 年度					
事業概要:	にあたり、布団太真は目立つ場所である 行事の次世代継承	岩屋神社秋祭りの布団太鼓は担ぎ手不足のため50年間途絶えていた。平成29年度に再興するにあたり、布団太鼓の布団締めが約70年の経年劣化により痛んでいるので修繕する。布団締めは目立つ場所であるので修繕し見栄えを良くし、地域住民の愛着を高め、布団太鼓および伝統行事の次世代継承につなげる。あわせて修理現場の一般公開を実施し、伝統行事の活性化を図る。公開は5月に行い修理は7月までに完了させ、秋祭りに使用する。								
評価指標区分:	・保存会への新規	入会者数		(具体的な打	旨標は次のとおり)					
具体的な指標:	岩屋神社布団太鼓	保存会への新規入会	者数							
目標値:	平成 28 年度	24	人 ⇒ 平成	33 年度	100 人					
進捗状況:		各年度、	犬況値、目標に対す	ける達成率						
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度					
34 人	人	人	人	人	人					
13%										
事業② : 春・私	k祭りに使用する用	具の修繕及び公開事	業 実施団体: 山	の下伝統行事保存会						
事業区分:	用具等整備		事業期間: 平	² 成 29 年度 ~	平成 33 年度					
事業概要:	る際に支障が出るだ 増加がみられ、地 子も増加している。	こめ修理をする。前 或幼稚園の行事に組 今年度も修理によ	年度までの用具の個 み込まれる等地域個 り伝統行事への愛着	る獅子頭が痛んでお 多理の効果として、」 主民の関心も高まり、 音や青年会・保存会の も併せて実施し、さ	見学客・参加者の 会員や山車の乗 の安心感や意欲向					
評価指標区分:	・保存会会員数の	変化(維持)		(具体的な打	旨標は次のとおり)					
具体的な指標:	山の下伝統行事保	存会の保存会会員数	の変化							
目標値:	平成 28 年度	65	人 ⇒ 平成	33 年度	90 人					
進捗状況:	品: 各年度、状況値、目標に対する達成率									
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度					
65 人	人	人	人	人	人					
0%	I			1						